巻頭マップ❷

昼の中洲

博多区・中央区（中洲～天神）

鹿児島寿蔵歌碑

五足の靴「吉井勇碑」

水谷八重子碑

原田種夫文学碑（ブラジレイロ跡）

福博であい橋

福岡市文学館（赤煉瓦文化館）

博多“文学・芸能”の軌跡

中洲といえば、西日本一の歓楽街。かつては、菜の花が咲き乱れたことから小粋に「菜香洲」と呼ばれていました。昼の中洲を歩いてみると、意外にも文学や芸能の香りを感じることができます。

今回は、福岡市観光案内ボランティアの脇山静代さんの御案内で、「真昼の中洲文芸講座コース」に出かけました。

まずは、櫛田神社境内で、独自の紙塑人形を創始し、その至芸により人間国宝となった「鹿児島寿蔵歌碑」を発見。その後、享保の大飢饉を悼んで毎年八月に盛大な飢人地蔵祭が行われる「川端飢人地蔵尊」、五足の靴ゆかりの「川丈旅館」、レトロな雰囲気の「多門通り」、博多最初の常設芝居小屋跡の「旧永楽町石碑」、大正十三年のパリ万博で銀賞を受賞した小島与一の「三人舞妓像」を経て、福岡の文化人のサロン的存在であった「ブラジレイロ跡（原田種夫文学碑）」に到着。普段は見逃しがちのスポットですが、中洲が繁栄していく過程でその時代ごとに変化していく「まちの賑わい」を現代に伝える貴重な「宝物」。

小休憩の後、西大橋を渡り福岡部の菅原道真公ゆかりの「水鏡天満宮」、辰野金吾・片岡安設計で国の重要文化財指定を受けた「福岡市文学館」へ。次に、西中島橋を渡り、ふたたび中洲に戻り、「川上音二郎生誕碑」のある「沖濱稲荷」を経て、「芸どころ博多」を象徴する「博多座」に到着しました。万歩計を見ると六五〇〇歩を示しており、二時間の「宝物捜し」の散歩を楽しみました。

次に、散策中に見つけた穴場をご紹介しましょう。川丈旅館の吉井勇句碑「旅籠屋の名を川丈といひしこと　ふと思い出てむかし恋しむ」は、博多の近代文学の原点を示すものであり、感動ものです。

次いで、西中島橋の袂では、「福岡市道路元標」、隣接する西中洲公園には、戦災から復興し、大いに発展していく福岡市の未来を象徴する冨永朝堂作の「記念群像（十体像）」もあります。また、沖濱稲荷では、新派の水谷八重子・波乃久里子らの記念碑を発見。新劇の元祖といわれた「川上音二郎」を敬愛する人々の姿に心うたれました。

記念群像（十体像）／冨永朝堂作（西中洲公園）

水鏡天満宮

水鏡天満宮の鳥居
（広田弘毅が小学生の時に書いた掲額の文字）

多門通り

西中島橋から中洲方面の眺め

三人舞妓像

追山笠廻り止

福岡市道路元標

■アクセス

地下鉄「祇園」駅
「中洲川端」駅
〈福岡シティループバスぐりーん〉
❸ 櫛田神社・博多町家ふるさと館前
❹ 博多五町・ホテルオークラ前
❺ 天神四丁目・赤煉瓦文化館前
西鉄バス「祇園町」
「川端町・博多座前」
JRバス「祇園町」

■コース散策：約2時間

ボランティアガイドの
脇山静代さん